

令和8年度 経営企画部・財務部(デジタルイノベーション推進課・会計課含む) いこま考座

〔開催概要〕

と き	8月2日(日)	9時00分～12時00分
ところ	鹿ノ台ふれあいホール	
参加人数	38人	
市側出席者	経営企画部長、財務部長、CD0、危機管理監、広報広聴課長、危機管理課課長補佐、危機管理課職員2名	
プログラム	・経営企画部各課、財務部各課（会計課を含む）、デジタルイノベーション推進課の主な仕事内容についての説明 ・「避難所レイアウト作成研修」にてワークショップ	

〔まとめ〕

経営企画部・財務部(会計課を含む)、デジタルイノベーション推進課の仕事を紹介。安定した市民生活の基礎を築くために、また、安全安心で住み続けたいと思ってもらえるまちをつくるために、各部の仕事を紹介する貴重な機会を持つことができた。

限られた地域での開催であったものの、皆さん前向きに受講されており、相互理解が深まる機会となった。

避難所レイアウト作成研修は、地震災害を想定して、避難所に必要な機能とその配置（避難所レイアウト）を地域とともに考えるという内容で、危機管理課が今年度から実施している事業である。

今回は、鹿ノ台地区の3カ所の避難所（鹿ノ台中学校、鹿ノ台小学校、鹿ノ台ふれあいホール）のレイアウトについて、これまでの地区のマニュアルを基に、最新の考え方も取り入れながら、自治会・自主防災会の役員の方々と一緒にワークショップ形式でレイアウトを検討した。11月の避難所開設訓練に向けて、次回レイアウトを完成予定。

〔主なご意見等〕

◇2班にわかれて議論する中で、中学校を拠点として、ふれあいホールは要配慮者専用、小学校は、中学校やふれあいホールに収容できない一般避難者・要配慮者・ペット同行避難者等を収容するといった3施設を一体で考える鹿ノ台地区特有の運用の整理が進んだ。

◇避難所でのLINE受付の運用方法やメリットを知りたい。

- ・LINE上で作成したQRコードを各施設のQRコードから起動するWebカメラで名簿係が読み取り、認証することで受付（チェックイン）するもの。
- ・避難所ごとに避難者の情報をクラウド上に集約させることで人数の管理だけでなく、安否確認のスムーズ対応に大きなメリットがある。

◇「各指定避難所の計画収容能力と生駒断層帯地震時の予想避難者数」の数値を知りたい。

予想避難者数とは、発災直後に避難される避難者の数。（鹿ノ台地区全域）

収容能力は、各施設の建物の延床面積全体の3分の2を一人あたりの必要面積で割

り戻した数。

生活者数は、自宅に戻れず、避難所で長期生活される方が避難者数の3分の1いると想定し、算出した数。この避難所生活者数をベースにレイアウトの作成を進める。

